

SCREEN

VOL.

108

株主通信

WINTER 2018

2019年3月期

第2四半期 決算報告

SCREEN NOW

Fit your needs, Fit your future

期待に答えて、未来を形に…

証券コード：7735

「彦根事業所新工場見学会」のご案内

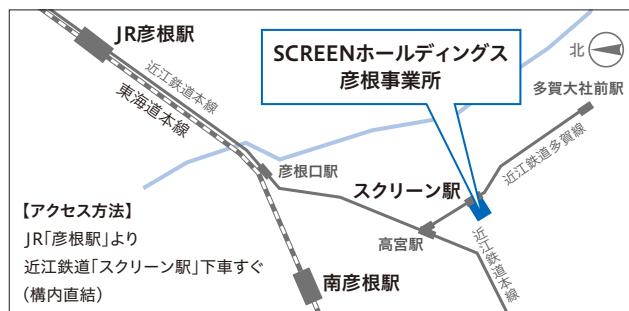
当社の主要生産拠点である彦根事業所の新工場見学会を開催いたします。参加をご希望される方は、アンケートはがきに必要事項を記入のうえ、ご返信ください。(申込締切：2019年1月18日必着)

日時：2019年3月6日(水) 13:00～16:30

場所：株式会社SCREENホールディングス 彦根事業所

滋賀県彦根市高宮町480番1号

- ※ 定員30名、応募多数の場合は抽選となります。
- ※ 厳正な抽選のうえ、発表は当選者へのご連絡(2月上旬発送)をもってかえさせていただきます。
- ※ ご参加は、当社の株主さまに限らせていただきます。
- ※ ご来社は、公共交通機関をご利用ください。
- ※ 往復の交通費は、各自のご負担とさせていただきます。



本誌にて提供する業績予想は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

株式会社 SCREENホールディングス

〒602-8585 京都市上京区堀川通寺之内上る四丁目天神北町1番地の1

電話：075(414)7233 www.screen.co.jp

SCREEN NOW Vol.108

発行日：2018年12月18日 発行：IR室



本誌では、当社製品(フォント)「ヒラギノ書体」「ヒラギノユニバーサルデザイン書体」を使用しています。

IR-SN-108

Top Message 株主の皆さまへ

通期予想は修正しましたが
引き続き過去最高の
売上・営業利益を目指しています。

代表取締役 取締役社長
最高経営責任者(CEO)

垣内 永次



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社の上半期業績は、連結売上高1,700億円、営業利益151億円となりました。売上高・営業利益とも7月予想を下回り、残念な結果となりました。営業利益減に関しては、主力の半導体製造装置事業において、西日本豪雨や台風による関西空港閉鎖の影響で、売上121億円が下期にスライドしたことや、自然災害による一時的な調達の混乱が生じたことが主な要因ですが、加えて、グラフィックアーツ機器事業において、POD装置のOEM販売が減少したことも一因となりました。

半導体業界の設備投資の今後を不安視する向きもありますが、足下の受注は堅調に推移しており、下期は売上、営業利益の回復を見込んでおります。上期の影響から通期業績予想は下方修正したものの、売上高・営業利益ともに過去最高であることに変わりなく、6期連続での増収・増益を目指しています。年間配当につきましても、過去最高となる一株当たり155円を予想しております。

当社は今年、創業から150周年、創立から75周年という節目を迎え、今後も持続可能な成長に向け、ESG*に重点をおいたCSR経営に取り組んでまいります。皆さまには引き続き、ご理解、ご支援をお願い申し上げます。

* 環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の略称。

2019年3月期の連結業績予想(単位:億円)

| 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する当期純利益 |
|-------|------|------|-----------------|
| 3,740 | 435 | 420 | 305 |

Segment セグメント別業績(第2四半期累計期間)

連結
売上高

1,700 億円
(前年同期比 10.6% 増)

連結
営業利益

151 億円
(前年同期比 10.2% 減)

SE:半導体製造装置事業

売上高

1,128 億円
(前年同期比 13.1% 増)

営業利益

116 億円
(前年同期比 20.2% 減)

メモリー向けの売上が増加、ロジック向けも堅調に推移し、増収を確保したものの、自然災害の影響などで減益となりました。

GA:グラフィックアーツ機器事業

売上高

238 億円
(前年同期比 3.7% 減)

営業利益

4 億円
(前年同期比 65.0% 減)

POD装置やインクなどの売上が増加したものの、CTP装置やPOD装置のOEM販売が減少し、減収減益となりました。

FT:ディスプレイ製造装置および成膜装置事業

売上高

254 億円
(前年同期比 11.1% 増)

営業利益

28 億円
(前年同期比 52.6% 増)

中国や台湾向けの大型ディスプレイ用装置や中国向けの中小型用装置(有機EL)の売上が増加し、増収増益となりました。

PE:プリント基板関連機器事業

売上高

71 億円
(前年同期比 24.1% 増)

営業利益

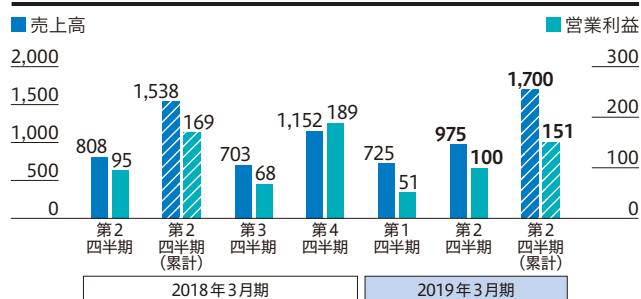
10 億円
(前年同期比 170.8% 増)

台湾向けを中心に、直接描画装置の売上好調により、増収増益となりました。

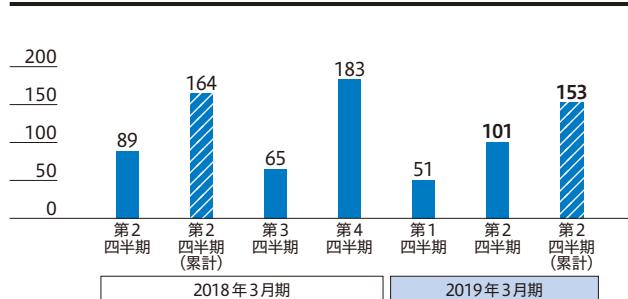
Highlight 連結決算ハイライト

(注) 財務数値につきましては、金額は表示単位未満を切り捨て、比率は四捨五入して表示しています。

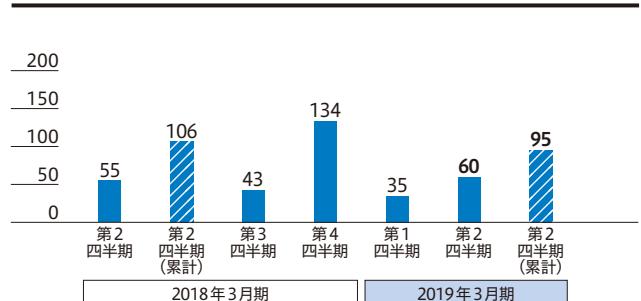
売上高・営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



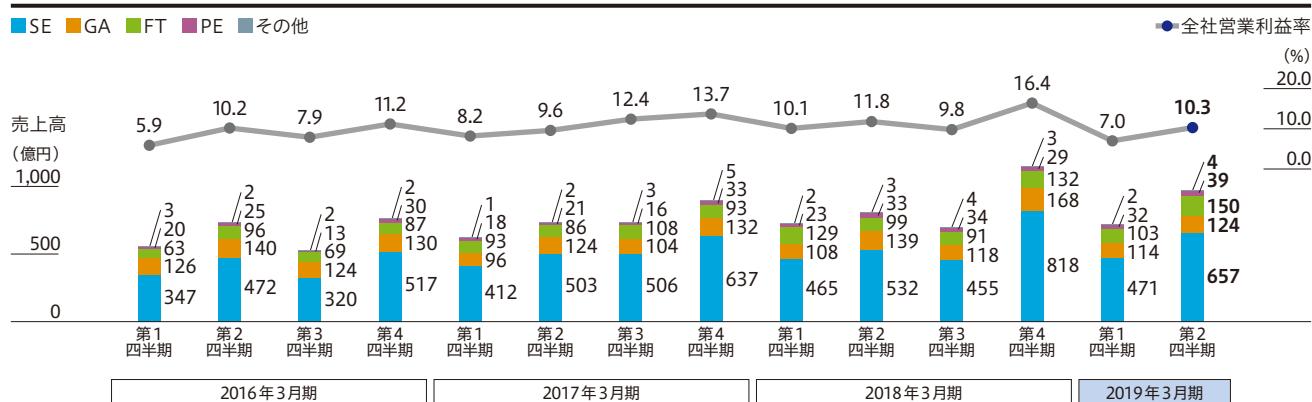
親会社株主に帰属する四半期純利益 (億円)



受注高・受注残高 (億円)



セグメント別売上高・全社営業利益率



Topics

PE:プリント基板関連機器事業

5G対応デバイス市場へのビジネス展開を加速

IoTやスマートフォンの高機能化による情報量の急激な増加などに伴い、2020年に現在の100倍の速度での通信が可能な第5世代移動通信システム(5G)の導入が予定されています。

5Gに対応する高機能基板への需要が高まることから、当社は、プリント基板用直接描画装置「Ledia 6」の販売を強化。この装置は、世界で初めて高輝度紫外線LEDを光源に採用、複数波長を合成することでさまざまな感光材に対して、高品質な回路の形成を実現しました。本装置の高い性能とソルダーレジスト*向け直接描画装置の世界シェア1位の導入実績が評価され、台湾大手のプリント基板メーカー

から、大型受注に成功、10月に納入しました。

当社は今回の導入を機に、同社との協力関係をさらに強め、プリント基板業界をはじめ電子デバイス産業の発展に貢献していきます。



Ledia 6

*ソルダーレジスト:プリント基板表面の回路を保護する絶縁膜(インキ)

CSRの取り組み

京(みやこ)の生きもの・文化協働再生プロジェクトに参画

「生物多様性の保全」に向けた取り組みの一環として、京都市が推進する「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト」に参画。本社事業所(京都市)にて、絶滅寸前種を含む京都産の希少植物生育を、3カ年計画で進めています。このプロジェクトは、「京都市生物多様性プラン」により、京都の祭や文化を支える生きものの保全・再生のための取り組みに対し認定を受け、昨年の春から本社内一画の土壌改良を進め、フタバアオイをはじめとする希少植物(他十種以上)を育てています。いずれは、このフタバアオイを京都三大祭の葵祭に奉納したいと思います。

豊かな自然や歴史文化の街、京都に本社を置く会社として、自然環境や伝統文化への意識を高め、生物多様性保全への取り組みを推進しています。サステナブル(持続可能)な社会を目指し、地域社会に貢献することで、企業価値の向上に努めてまいります。

